

10月13日(日)

9:00石見銀山遺跡探検

・大久保間歩ツアー

最大級の間歩で、江戸時代と推定される縦横に走る手掘りによる坑道と、明治時代の開発で機械掘りによって坑道を拡張した様子を見ることができ、採掘技術の変遷を伝える貴重な遺跡とされている



・釜屋間歩(ガイドと合流)

夢のお告げで発見したと言われる間歩。慶長年間に発見、採掘され、石見銀の産銀量を飛躍的に増やした。



・仙の山

銀精錬の生産工場と生産従事者の生活の場が一体的にあり、山頂では銀鉱石の掘り出しだけでなく、精錬のかなりの工程をこなしていた。



・清水谷精錬所跡

山すその傾斜を利用して造られた明治時代の先端技術による精錬所の遺跡。

13:00神話と海辺の暮らし体験

・藻塩作り

御勘弁味噌(ごかんべんみそ)

鉱山の労働は重労働で30歳になると長寿のお祝いをしたといわれるほど短命だったため、1人に大豆4升と麴2升、塩2升が支給され、山役人が味噌にして支給されていた。



・静之窟(しずのいわや)見学

静間町魚津海岸にある波浪の浸食作用によってできた奥行45m、高さ13mの海食洞。大国主命と少彦名命(すくなひこなのみこと)の二神が国造りの策を練った洞窟と言われている。



・夕食(郷土料理:へか焼き)

売り物にならない魚をすきやきの味付けで食べる漁師料理。

21:00宿泊地へ

10月14日(月)

9:00公開講座(石見銀山世界遺産センター)

世界遺産からのメッセージ～京都ヴィジョンと石見銀山～

講師:目黒正武氏

(NPO法人世界遺産アカデミー主任研究員・青山学院大学非常勤講師)

〈内容〉

・2012年の世界遺産条約採択40周年のテーマ

「世界遺産と持続可能な開発:地域社会の役割」(通称京都ヴィジョン)

・石見銀山は鉱山でありながら乱開発されず、自然環境が守られていることにより、エリアとしての価値が生まれている=京都ヴィジョンに合致

・正式登録名は「石見銀山遺跡とその文化的景観」

・世界遺産に登録されるためには、登録基準の1つ以上に合致するとともに、国内法によって、適切な保護管理体制がとられていることが必要

・登録基準→石見銀山は2、3、5に該当(5は日本では石見銀山と白川郷だけ)

2 技術の発展に影響を与えた、ある期間又は文化圏内での価値観の交流を示すもの

3 現存あるいは消滅した、文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証であるもの

5 ある文化を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本」

13:00古代出雲歴史博物館見学

15:00出雲大社参拝

16:00閉校式

③ 研修の感想

今回参加させてもらったNPOは実質この三日籠りしか活動をしていないが、毎年参加者が減っているとのことで、始めた頃(石見銀山が世界遺産登録された当初)は百人規模だったが、今年は2回に分けたこともあり、参加者とスタッフの数がほぼ同じという寂しい状況だった。

当初は大田市の協力もあったが、NPOとなった今ではそれもなく、金銭的にも厳しいということだった。

石見銀山の魅力はきちんと自然の中を歩いて背景を学んだ上で良さがわかるという種類のものだから、観光気分ではなく、一人で勉強しにやってくるような人にこそ来てほしい、というNPO側の気持ちも分かるが、もう少しきちんと広報活動を行い、広く一般に知られるような活動にしていくとよいと思った。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

9月か10月の連休にしか活動がないことを事前に研修者に知らせておく必要があると思う

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。